

# 震災10年とコロナ禍

新型コロナウイルスの終息がまだ見えませんが、全郷芸会員をはじめとした各地の祭り・芸能において、自粛と我慢を強いられている中でも、なんとか続けていこうという意思と、できることからやっつけていこうと努力されている姿が印象的に見受けられた2020年でした。

そして、間もなく東日本大震災の発生から3月11日で10年目を迎えようとしています。10年前の被災地では、壊滅的状况で生活もままならない中、何よりも早く郷土芸能や祭りが復活していききました。郷土芸能にたずさわることによって人々がつながり、安心させ、亡くなられた方への鎮魂供養を担い、日常生活の復興に大きな役割を果たしました。

なぜ郷土芸能は、災害があつても何度も復活し、コロナ禍でも途切れることがないのでしょう。全郷芸会員の活動の一端から、その意義を見出していただけると幸いです。

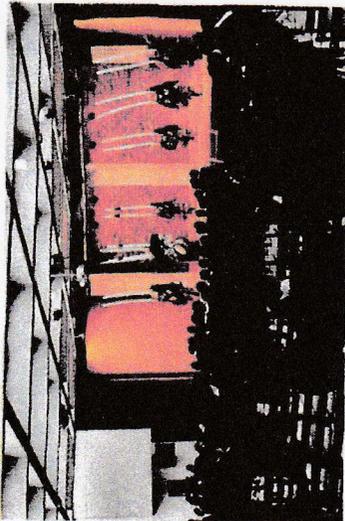
## ◎郷土芸能の公演

(ネット配信などオンライン含)

### 「普通<sup>ふた</sup>士<sup>し</sup>学園」郷土芸能鑑賞

11月12日(木)普通士学園中学校(東京都港区)

外部との接触が難しい昨今。修学旅行も中止となる中、普通士学園中学校では毎年恒例の東北への修学旅行の代わりとして、首都圏で



活動する東北に関係が深い郷土芸能の鑑賞会を企画した。はじめに全郷芸の小岩事務局次長から東北の郷土芸能の歴史を語った後、二子流東京鬼剣

舞(A331

埼玉県小川修

自代表)と金津

流横浜獅子躍保

存会(A471

神奈川県進藤

宏子代表)が続

いて出演。平日

にもかかわら

ず、二子流東京

鬼剣舞では10名

を超える踊り手

が集まり、コロ

ナ禍で減少した活動を補うような激しい演舞

を披露した。金津流横浜獅子躍は公演前に踊

りの体験ワークショップを実施。話題のマンガ「鬼

滅の刃」のフレーズを多用するなどして中学生

を惹きつけ、会場は爆笑に包まれながらも、

皆踊りに興味を持って積極的に取り組んでい



た。多感な時期の生徒たちにとって、現地に行けなかったのは残念だったが、東京の真ん中で地方の芸能に触れたことで、地方の風を感じ取り、少しでも記憶にとどめてくれたら嬉しいことである。